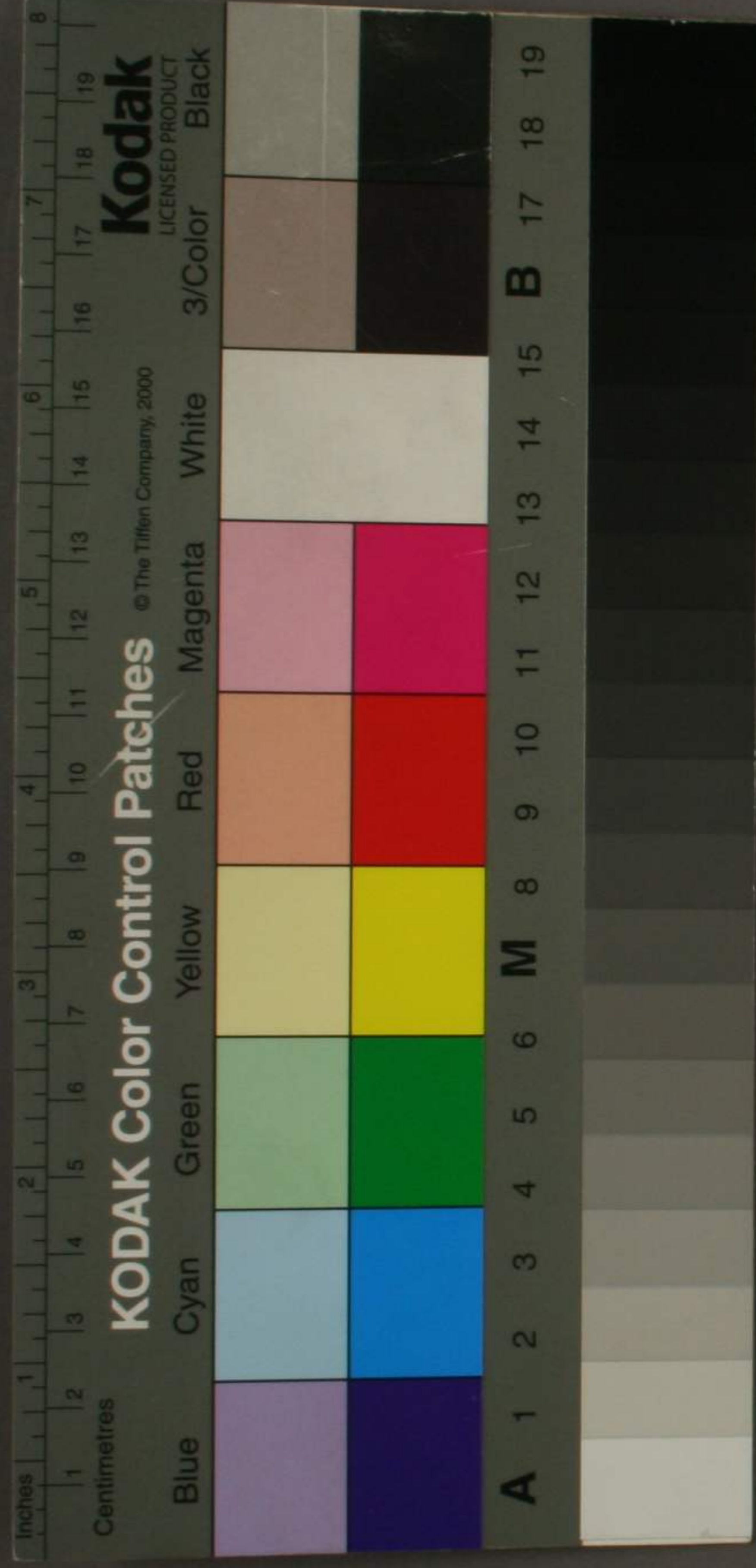




門ル84
婦 1345
卷 11

山州名跡志卷之十一目錄



葛野郡

西院

清水

爲義塚

綱敷官

武御前

清泉

大宮

三宮

桂里

春日社

三宮

嘉屋御前

靱負官

稻積社

御所内

若王子

桂川

兼房別荘

住吉社

権現寺

月讀社

櫛谷社

幸神社

勝定院

川勝寺

塩河

伊勢宅

野宮并歌

権現堂

大森彦七宅地

衣手社

塩通寺

幸林房塚

津寺

葛野河

御靈社

地藏堂

河島村

久遠寺

河島墓

唐橋

乙訓郡

上久世

光福寺

觀音堂

鎮守

綾戸社

大藪

鷺尾堂

八幡

木下社

下久世

福田寺

板井清水寺

保良社

子盛盛居所

下津林

蓮生寺

觀音堂

紀伊郡

吉祥院

天満宮

老松社

紅梅社

上所權現

辨財天

藏王社

大原野社

放生池

六田

牛宮

石原

賀陽宮

鳥羽寺

作路

實相寺

地藏堂

觀音堂

戀塚

小枝寺

橋

稻瀬淵

秋山里

鳥羽殿

御所内

院馬場

菊水

南殿

鳥羽之門

城南神社

八幡宮

北殿

池

車殿

田中殿

平門

泉水田

上菩提院

白河院陵

勝光明院

洲濱殿

竹田

安樂壽院

新御塔

塔

新堂

無銘石塔

御愛梅

冠石

荒神社

國分寺

九品寺

山王社

十禪師宮

御幸社

猿塚

東西陵

西行寺

不動院

美禰門院陵

近衛院陵

芹河和哥

芹河御所

赤池

草津

壇上

戀塚寺

下鳥羽

法傳寺

方便水

一念寺

田中天王

上羽

横大路

富森

納所

赤井

赤江崎

塔杜

乙訓郡

久我

久我畷

久我社

久我森哥

八幡宮

久我家別荘

本清寺

築山

古河

羽東師社

羽東師社 哥

目錄畢

山州名跡志卷之十一

瑜伽林隱士 如是相白慧 撰

葛野郡

西院 地名 在四條通西封疆外四町許

此号案ニ中

比此所ノ西ニ前ノ齋院居玉ヘリ。是ヨリ用テ此邊ノ名

トシ齋院ト書ス。然ルヲ此所亡滅已後西院ニ作ル歟

春日社

右村北平林內在

鳥居

西向

拜殿 南向

社同

土人産沙神ト爲ス

例祭八月廿八日神

興ニ基アリ其ハ住吉社ノ神興アリ

住吉社

同村西ニ在

鳥居

北向

社

西向

野宮

或齊宮

在西院西五町許平林中

拜殿 東向 社同

此所今春日。住吉祭日神輿ノ旅所ト爲也。按スルニ。

此所ハ差戔ニ等ク。伊勢齋宮ノ居シタマヒシ所ナリ。齋

宮齋院潔齋ノタメ居シ玉フ所ヲバトモニ同ク野宮ト

号ス。事ハ記傳ニ載タリ。但此所齋王ノ始未考。

延喜帝ノ皇女雅子内親王此所ニ住タマヒシ由シ。撰

集ニ出。如左。

玉造宗集

死宮素乃春まのりふ花まつもてはつりく

むいふとくはつてあはれふとけりまう 敦忠

なり

あふりしつらむあふりしつらむあふりしつらむ 維内院

△清水 野宮南半町許小林中ニヨリ 由來未考

○三宮 清水西北郡村ニテリ鳥居 東向 拜殿同 社同

此社ハ松尾七社ノ中ノ其一ツ也。勸請記不詳。

所載次下自朱雀權現堂至西

○權現寺 在七條朱雀通西角 門在東北 宗旨

淨土屬知恩院 堂 東向 本尊 阿彌陀佛 坐像

餘 二尺 作 慧心僧都

○權現堂 在北門内南向 勸請スル所權現ノ

本地勝軍地藏 立像一 尺餘 作 聖德太子 安厨子

脇壇 左地藏 都子玉丸本尊 右 聖德太子ノ

影 自作 共三小 當寺始歡喜寺ト號ス其地合在

處ノ東洛外封疆ノ東舊跡ニ古木アリ。歡喜寺森ト

號ス其乾二十間許ニ塚アリ。權現社ノ跡ト云フ。今ノ
如キハ秀吉公ノ代ニ移セリ。權現始メ南京元興寺ニ
安ス。文德天皇御歸依ニ由テ此地ニ移玉フトナリ
○源爲義塚 右北門前竹林中在リ。今石彫佛像ヲ安ス
此所ハ古源義朝 勅ニ依テ父爲義ヲ誅セシ所ナリ
保元物語曰。鎌田兵衛爲義入道ノ方ニ參リテ。當時
都六平氏ノ輩權威ヲ取テ。守殿ハ石中ノ蜘蛛トヤラン
ノヤウニテ御座セバ。東國エ下ラセ玉ヒ候ナリ。判官殿ハ
サキ立奉ントテ。御迎ニ參セラレテ候トテ。車指寄せ
タレバ。サラバ今一度ハ幡エ參テ御暇乞申スベカリシ
モ。ヲトテ。南ノ方ヲ伏拜テ。頓テ車ニ乗タマフ。七條朱

鶴ニ白木ノ輿ヲカキスエタリ。是ハ車ヨリ乗移リ玉ハシ
所ヲ討奉ニ支度ナリ。其時泰次郎延景鎌田ニ向ツテ
申ケルハ。御邊ノ評誤レリ。人ノ身ハ一期ノ終リヲ以テ
一大事トス。ソレヲヤミクト殺レ奉シ事情ナク侍ベリ。只
有ノ儘ニ知セ奉テ。最後ノ御念佛ヲモ勸メ申サレ。又ハ
仰セヲカル。御事モチドカナカルベキト云ヘバ。正清
尤モ然ルベシ。物ヲ思ハセ參ラセジテ存ジテ。カヤウニハ
評タレドモ。實ハ我アヤマリ也ト申レケレバ。延景泰ツテ
實ニハ關東御下向ニテハ候ハズ。守殿ノ宣旨ヲ承分
テ。正清太刀搦ニテ失ヒ參ラスベキニテ候。再三數年
御申候ヒシカドモ。勅定重ク候アイダ。カナク申付

ラレ候心レツカニ御念佛候ベシト申タリレカバ。口惜キ
事カナ。爲義ホドノ者ヲ謀ラズ凡誅セヨカレ。繼ニ編言
重クシテ。助ル事叶ハストモ。ナド有ノミ。ニハ知ラセヌゾ。
亦實ニ助ント思ハバ。我身ニ更テモナトカ申留メサル
ベキ。義朝ガ入道ヲ頼ミテ來リタラシラバ爲義ガ命チニ
更テモタスケテ。義朝一人ガ咎ニアラス。此ノ事ヲ始メ
ヨリ。ナド知セヌトテ。念佛百反バカリ唱ヘツ。更ニ命ヲ
惜ム氣色モナク。程ハ定テ。爲義ガ首斬ラ見ントテ。雞
人ナド立コムベシトクク斬トノ玉ヘバ。鎌田ノ次郎太
刀ヲ拔テ後ヘハリケルガ相傳ノ主ノ首斬シコトハ
ウクニ。涙ニタレテ。太刀ノ中。所モヲボエチハ。持チタル太

刀ヲ人ニ與ヘテ終ニ斬レタミヒニケリ。頸實檢ノ後。義
朝ニ賜ヒテ。孝養スヘキ由レ仰下サレケレバ。正清コレヲ
請取リテ。圓覺寺ニ收メ。墓ヲ築キ塔ヲ立テ。孝養ヲ
ゾ致サレケル。卷中

△嘉屋御所

權現寺ノ西ニ町路ノ北竹林ノ地是ナリ

此所小祠東向ニアリ

此地古ヨリ鍬ヲ入ルコトナシ

是即チ靈神有ル故ナリト云。此所ノ名一ナラス。或ハ保
多御前或ハ波布曾乃御前ト云。由來詳ナラス。一説
曰。田原藤太秀郷ノ宅地祭ル處。惡王子ナリト

○月讀社

右竹林ノ西路ノ傍ニアリ

鳥居東向本社社同

此社松尾七坐ノ中。月讀社ノ例祭ノ日。旅所ニシテ神

興ヲ移ス所ナリ。祭ル所本社ニ同シ

○大森彦七宅地 傳説右社西真室寺地より東至三町上云

○綱敷天神宮 月讀ノ西北方南向ノ小宮是ナリ 傳

未詳 按ズルニ綱敷トハ菅根公筑紫ニ遷リタマフ時

博多ニ於テ船ヨリ上リ玉ヘルニ御座無クシテ船綱

ヲ敷テ御座トナス。此時一夜ニ於テ白髮ト成玉ヘ

リ。世人其御相好ヲ圖シテ綱敷像トモ。一夜白髮ノ

御影正云々也。其神像ヲ安置スル故ナル歟 縁起不詳

○鞍負天神宮 綱敷宮ノ西丁町餘路傍ノ北ニアリ

小祠 南向 傳記不詳 此宮ノ前南北ニ通ル路アリ

是ヲ鞍負通ト号ス。仍テ号ルナリ。此通路ハ南ハ西至

アタル古ハ西寺ノ西ヲ通ツテ吉祥院ニ通ジ北ハ北
野天神宮ノ南門ニ通ズ。今尚田畠ノ中ニ細路アリ。
コレスナハ手管神北野ノ宮ヨリ。吉祥院ニ通ヒタマフ
路ナリト云フ。吉祥院下ニ載ス

○機谷社 右天神宮ノ北ニアリ 社 南向

此社松尾七坐ノ中本社ニ同ジ。祭日ノ前二月己日

己日二日アルトキハ第一ニ用ユ。ヨリ例祭四月酉日ニ

至テ神輿ノ旅所ナリ

○衣手社 宗像社 右社ノ南半町許ニアリ 一社南

北ニ雙テ東向ニアリ 所祭 松尾七坐ノ中義上ニ

同ジ。本山ヨリ神輿遷幸ノ日社ノ前ニ於テ能ヲ爲也

○武御前社 右社ノ西一町許ニアリ 鳥居西向 木柱

社同 祭ル所松尾ノ屬社ナリト

○稻積社 右社ノ南一町餘路傍ノ西ニアリ 小祠南

所祭稻荷神 此所東ニ通路アリ是即梅小路ナリ

○幸神社 右社ノ南三町許西寺ノ西北ノ路傍ニアリ

小祠東向 所祭道祖神

○塩通寺 世ニ水藥師ト稱ス 衣手社ノ坤二町許ニアリ

堂東向 本尊 藥師佛立像二尺餘 作不考 開基不

詳今真言宗コレヲ守ル

○清泉 堂ノ傍ニアリ 此水ニ因テ本尊ヲ水藥師ト

稱ス一説ニ曰ク平相國熱病ノ時此水ヲ汲テ浸リ

玉ヘリト然レドモ書記ナシ源平盛衰記ニ比叡山千手

井ノ水ヲ汲由ヲ載ス因ニ彼井今尚千手院ナリ

御所内所名 右寺ノ坤四町ニアリ方三町許民家アリ

村ニ名タ 傳云此所古公家ノ別荘アリ仍テ御

所内ト稱スナリ然レモ其ノ傳説不詳 謠云清盛ノ

宅地ナリト按ニ此義非ナリ相國ノ八條亭ハ此所ハ

下ス其地洛陽部ニ載ス今此所田地ノ字ニ石町ト

要スルアリ是則チ古ノ泉水壘石ノ跡ナリト土中今尚

壘石アリ又此地ニ毎歲荷葉ヲ生ズ耕夫無情ニシテ

刈拾レトモ絶ルコトナレ

○勝定院 同所ノ中央ニアリ 寺南向 額 勝定院

堅筆者不詳 本尊 阿弥陀佛 坐像二尺五寸 一作春

開基不詳古真言今淨土宗守之

△越前幸林房塚 同所ノ乾二町許ニアリ 傳不詳

○大宮○若王子社 同所ノ家ノ東ニアリ 社西向

所祭 松尾大宮 熊野若上王子 傳不詳

次下ニ所載前ニ云ラ櫟谷社ノ西ニ至ル

川勝寺所名 載負通ノ西四町許ニアリ 此所ハ古秦

川勝建立スル所ノ川勝寺アリ 其寺亡滅ストイヘ居呼テ

村名ト爲ス彼舊跡今福源院ト号ス 此寺古ハ大架

ナリ 今里ノ中ヨリ北ニ當テ塔ノ本ト称スル地ノ字アリ

是則塔アリト所今猶殘テ如塚又里ノ南ニ堂ノ内ト

号ル地ノ字アリ 是又一寺ノ内ニシテ古ハ街道此所ニテ

南ノ方ヲ通ル状但別寺ノ跡ナル状不詳

○津寺 同所橋ノ西ニアリ 小堂 南向

本尊 藥師佛 立像六尺 作行基 開基 不詳

○三宮 同所北方ニアリ 社南向 所祭松尾ニ同シ

祭日同キ神輿ノ旅所ナリ

又云右里ノ東西ニ南北ニ流レテ二ツノ河アリ 其東ハ

紙屋河ノ流レ 其西ハ鳴龍河ノ流レナリ 本末上ニ辯ズ

桂川 川勝寺ノ西四町許ニアリ 此川丹波往還道ヲ

遮ツテ舟渡ナリ 西ニ桂里アリ 仍テ川ニ名多水源ハ

大井川南ハ下鳥羽ノ西ヲ流レテ淀ニ至ルナリ

和歌三詠

橘川 今号上桂左衛門府知之 拾芥
○葛野川 今号下桂右衛門府知之 同 謂此府
官ノ司ニテ堤等支配スルナリ

桂里 川西ニアリ 里兩所南北ニ在テ 上桂中桂下桂ト云
久々の中におくる里をわたりてをれいへり
いこころふ寂世へらん久々のうづれ里の月乃うく

藤原兼房山莊 古此所ニアリ
橘乃心在まゝ時をのいそはほまれを傳ふ

伊勢宅 昔ノ名女伊勢御此所ニ住ムコトアリ
伊勢が極はゆるるるにるる落日はうらうら

因云此里ニ桂女ト云古事アリ從古公家武家ニ
出入ス今尚後裔アツテ桂姫桂御前ナド称ス依
縁他所ニ住ストイヘ凡号ハ則用之桂女源二位

頼政詠和歌 桂女ヤ新枕スルヨナクハトラレシ
鮎ノ今夜トラレヌ 本縁載別記

○御靈社 上桂民居ノ西ニアリ 鳥居東向 拜殿同社同 所祭 火雷神一坐 神祇拾遺

此神或書曰崇道天皇御弟云云 一書云北野御眷屬神ニ同名アリ。當社ハ別神也云云 土人産沙神ト爲ス 例祭 八月十八日 神輿一基

○御靈社 下桂村ノ中西ノ方ニアリ 鳥居東向 社同 所祭 橘逸勢靈 土人産沙ノ神ト爲ス 例祭同上 神輿一基

○地藏堂 同所往還路傍ノ北ニアリ 堂南向

地藏菩薩 立像八尺許 作小野篁 緣起前見多

河嶋所名 桂ノ西ニアリ 民家アリ村ニ名ク

○久遠寺 同所ニアリ 寺東向 宗旨 一向真宗

西本願寺ノ別院ナリ 開基 本願寺門主覺如上人

○覺如塔 地内ニアリ 覺如上人真宗開

山三世 觀應二年正月十九日ニ化ス。八十二歳 河嶋墓 延喜式ニイフ。今議ナラズ 延喜式曰贈正一位當宗氏墓 在山城國葛野郡云云

此ヨリ西ノ名所前卷ニ載ス。今此ヨリ東ニ至リ。西寺ノ西南ニ至ル

○唐橋 東寺南門ノ西四塚ノ辻四町ニアリ 唐橋ト号スルニ號アリ。一説ニ秀吉公朝鮮發向ノトキ造ル故ニ唐入橋ト云フ義ヲ以テ此ヲ号ルナリト。此ヲ義非

也。尤今此道東寺ノ西朱雀通ノ辻ヨリ。向日ニ至ル道ハ其時開ク處ニシテ。元ヨリ唐橋ト号スル橋アリ。其所今ハ唐橋村ト云フ。今ノ橋ヨリ一町餘。卯辰ノ間ニアリ。古ハ其所ニ橋アツテ唐橋ト号ス。其流レヲカヘテ今ノ地ニ移ス故ニ。舊号ヲ用ルナリ。初メ唐橋ト云フ事未考。初メ唐橋路。東ハ洛中ニ至テ。直ニ唐橋通ト云レナリ。其證ハ拾芥抄ニ東寺ヲ記ス。東寺ハ唐橋ノ南壬生ノ東ト云云。唐橋トハ唐橋通ト云フ義。壬生トハ壬生通ト云フ略語ナリ。壬生ハ即チ朱雀通今本通ノ東ノ條ナリ。此條南北ニ通りテ。下ハハル條ニ至ルナリ。東寺ハ則チ壬生通ノ東ニアル事明カナリ。唐橋

ノ南トハ唐橋通ハ東寺ノ北門前ヲ東西ニトナル條是ナリ。此條東西ニ通ツテ。東ハ東洞院ニイタルナリ。今ノ如キハ民居トナリ。田島トナスナリ。是ヲ以テ知ベシ。古ノ唐橋ハ今ノ唐橋村ニアツテ。東西ニ渡リシ也。其橋西ニ至テハ桂川ノ流ヲ越ヘテ。五六町西。今世ノ西ヲ經テ南ノ方向日ニ至リ。山崎ニ通ルナリ。此通今尚久世ノ西ノ野ニ南北ニ通ル細道殘ツテ。ソレヲ指テ播磨街道ト云フナリ。又云フ。今ノ唐橋ノ路ハ秀吉公ノ代開クヲ以テ。其開クニ田地ヲ劈分ル故ニ。今尚其巷ニ一段ノ田地。道ノ左右ニアル者ナリ。其地ノ年貢減スルヲ以テ。上古ノ年貢帳ニ違スル故ニ。

此道出ルノ後ハ其損田ノ減分ヲ号ケテ道無ト記ス
ナリ。今尙此ノ如シ。同キ橋ノ下流ハ洛陽堀川ノ流レ
ヲ四條通ヨリ西ノ野ニ分流ス。是則チ甲地ノ用水ナリ。
其水野ヲ流レテ西七條ノ西ヲ流レ。此所ニ來ツテ
吉祥院ノ河ニ入ナリ。吉祥院ノ河次下ニ記ス。又此橋ハ
吉祥院ノ領ニレテ橋修理ヲ加ルニ及フトキハ彼ノ所
ヨリ上ニ新ヘルナリ。又此橋ノ下流ハ鳴瀧河紙屋
河堀河四條ノ流レ。今ノ唐橋村ノ西ニテ落合テ來リ
上鳥羽ニレテ桂川ニ合ス。
乙訓郡 所載次下乙訓郡
上父世 所名 父世上下ニアリ 唐橋申西ノ間半里

許桂川下流ノ西ニアリ

○醫王山光福寺

上父世ニアリ

境地南面閉前三

町左右ニ松ノ雙樹アリ

宗旨 四宗兼學同ニ銘奎

鳥居

南向
木柱

門 南向 安金剛力士 長六尺許

作 聖德太子

拜殿 南向

堂 同

額 藏王堂

豎額筆者不詳

本尊

藏王權現立像六尺許

作役行者

同東脇壇 役行者像

西壇

淨藏貴所

已上作
不詳

○觀音堂

同所東アリ 本尊

聖觀音

立像一尺
餘作不考

○木守

勝手社

堂ノ東傍アリ 所祭和州吉野山同

開基

淨藏貴所

當寺傳云人王六十二代

村上天皇ノ御宇。天曆九年乙卯。淨藏貴所草創
ノ地ナリ。貴所ノ傳嘗テ貴所吉野山大峯ニ入ッテ
苦修ス。其後彼岩岨ヲ出テ。洛ノ舊宅ニ歸ラントス。
時ニ即彼山藏王權現ノ寶前ニ籠ツテ。法施スル
事ニ晝夜ニ至ル。曉夫ニ及デ夢ニモアラス。現トモ無
シテ。寶殿動搖シ。權現出テ言。汝キ日比ノ法施神
妙ナリ。今洛ニ歸ラントス。吾ヲ供シツベシ。永ク有縁ヲ
守ラント。淨即チ告ニ任セテ。袈裟ヲ解テ。肩ニカケテ。
其上ニ荷負ス。忽チ化シテ木像ト爲ル。曉キ彼ノ山ヲ
立テ。帝土ニ向フ。桂川ノ畔ヲ往テ。持スルト言ノ鉢自
河カ水ニ落テ。水ニ折廻テ北ニ至ル。奇異ノ思ヲサレテ。

之ヲ慕フニ鉢自ラ下所ノ岸ニ止ル。其所今ノ藏王堂ノ
東ノ川ナリ。淨即チ其地ニ留リテ四方ヲ見ル。西方一
村ノ上ニ圓光赫々ス。行テミレバ辨財天女ノ靈場也。
又藏王神像如山ニシテ動キ玉ハス。此地ハ是有縁ノ
地ナル事ヲ悟ル。即チ州座シテ持念ス。同夜西方ニ丈
六ノ椰ヲ生ズ。明天老翁現ジテ木ニ向ツテ。辨財天醫王
善逝ト唱ヘテ礼ス。淨之ヲ問フ。翁云。此地ハ則チ醫王辨
財天女影向ノ所ナリ。今時ナル哉。藏王權現此地ニ來リ
玉フ。於此建佛閣安住セバ。利生不退ナラント云畢テ
失ヌ。淨數品ノ靈瑞ノ故ニ。村民ヲ招キ四方ヲ勸テ。一
堂ヲ營ミ。靈像ヲ安置ス。今ノ本尊是ナリ。已上縁起意

○例祭 九月十九日於神前爲能 土人爲產沙神
○綾戸社 在藏玉堂南民村中 社南向

所祭 有説云 例祭 九月十九日 每歲六月

祇園會ニ彼ノ神輿四條ノ旅所ニ遷幸ノ時冠裝束ノ
男子木作ノ駒頭ヲ首ニ繫テ馬ニ乘リ神輿ノ前ヲ行
アリ。是便當所ヨリ勤ム其駒ノ頭此社ノ社司ノ家ニ置
也俗御駒ト稱シ信敬シ其家ニ參詣シ祈願ス由來不詳
大敷 所名 在土久世己午雙 有民家各社

○鷲尾堂 在右同所 俗ワレタト云 堂 南向

本尊 藥師佛 立像一尺許 作不詳 此像乘鷲背
鷲見返左 鷲所作傳教

脇士 十二神 臺座所 作傳教

當寺開基 傳教太師 傳云昔太師 八幡ノ神告

ヲ得テ於此地爲放生會爾時一鷲藥師佛ノ像ヲ
負來ツテ留メテ去リヌ師信感シ此地ノ靈土ナルヲ知
遂ニ手鷲ノ姿ヲ作テ爲佛座并ニ十二神將ヲ作り
佛殿僧房ヲ造營シテ号鷲尾寺中比回祿シテ大ニ衰
タリ又堂後ノ古松ハ古ハ鷲ノ來リシ所ナリ

○八幡宮 在堂傍 勸請ノ本縁依件義也

○木下明神 在鷲尾寺南一町 鳥居南向 拜殿同

社同 所祭 辨財天 但近世所改祭也 土人爲
產沙神 例祭 四月己日 此所ハ古羽束師明神

祭日神輿ノ旅所ナリ。仍所祭同羽束師社中比彼社ノ氏子等神事ニ就テ爲詳論闘争ス。是故ニ氏子多ク他卿ノ神社ニ屬ス。仍テ此所ヲ不爲旅所也。

下^主久世 在上久世南七八町

○迎錫山福印寺 在同所平林内 門南向 堂同

額 迎錫山 堅額 筆者唐人絶名

本尊 地藏菩薩 立像五尺許 作 行基

脇士 二天 長五尺許 二天多門持國也 作 不詳

脇壇東釋迦佛 作 行基 傳云行基菩薩此地ニ

居在ノ時靈告ヲ得當寺内ニ靈木アリ。是ヲ以テ釋迦

并地藏尊ヲ可刻ト。即チ出テ巡見セルニ。一古栢樹ヨリ

光明ヲ現ス。由テ造立セラル、所ナリ

同西壇 摩耶夫人 赤梅壇立像八寸八分 作 梁武帝

傳云此像ノ來由ハ於唐土或時難產ニ係ツテ死ス者

多シ悲歎ノ聲巷ニ滿ツ。因是皇帝一心ニ持念シ至ヒテ

手摩耶ノ尊像ヲ造リ至フ事ニ尊以テ三寶ニ皈シ。天

下ノ平産ヲ祈願シ至ヘリ。然ル時忽チ天下ノ難産止テ貴

懸愁眉ヲ發ヌ。弘法大師入唐ノ時件ノ由旨ヲ聽聞

シテ其ニ尊ヲ乞得テ日本ニ將來ス。其後攝州ニ一精

舍ヲ建テ此尊ヲ安ス。此山ヲ号テ佛母摩耶山。初利

天上寺トス。今此像是ナリ。其來由記緋紙金泥ノ書一

軸アリ。其傳ノ終ニ長和四年卯月八日沙門弘慶敬白云

摩耶山ヨリ當寺ニ移ス事由縁不詳。今彼本山ノ像ハ別作トイフ

○龍神像 安同堂 此像以石作ル奇異絶妙ノ棚

好ナリ。古旱魃ノ年。當寺ノ住持俊惠法師請雨ノ法ヲ

修セル寺内ノ井中ヨリ現ゼリ。靈驗古今ニ新ナリ

○板井清水 在同寺良一町許田間 此所古ハ寺ノ

境内ナリ其方界方八町アリシト。此井ハ即チ俊惠法師ノ

詠倭歌者也

千載集題 古御月

あつきの板井は清水をききあそ月をふまふと云ふ

右倭哥ハ俊惠法師出此所在他後歸所詠云云

みづの板井は清水をききあそ月をふまふと云ふ

○保古羅明神社 在福田寺北一町許森内 鳥居南向

拜殿同 社同 所祭 不考 當所爲産沙神

●子敷盛舊跡 當下久世南寺戸北有池其所是ナリ

傳云此地敷盛ノ室蟄居シテ一男子誕生ノ所ナリ。然

後源家ヨリ平氏ノ裔類ヲ尋揚ヲ以テ不堪忍ノ一乘

寺ノ下松ニ捨ツ。此地古ヨリ住宅スル者皆怪異ニアラ

ユヘニ畠トナス。然レドモ又實ノルコトナシ。因テ爲池ナリ。又

池ニ米種ヲ浸スニモ無芽ト云フ

因ニ云下久世ノ邊ニ鷺坂并指月。鉤月ノ名所アル由浮

説アリ。太々附會ノ説ナリ。鷺坂久世ニアリト名寄ニ云フ

今此上下ノ久世ニアラス。此所ハクゼト濁ルナリ。見末卷
指月鈎月又見末卷 鷺坂名所方角抄ノ説ハ不可
用。此書宗祇作トイフハ非ナリ

下津林村名在上久世西北

○蓮生寺 在同所 熊谷蓮生カ住シトイフハ非ナリ。當
寺棟札云 蓮生大徳人建立云云

○觀音堂 在同所 云西御堂初々觀音ノ如ク今草
堂多リ 本尊十一面觀音立像八尺許作慈覺
元峯堂ノ本尊ナリ。峯堂戴前

右下久世西南至寺戸鷄冠井。山崎街道ナリ。其所
戴第十卷今所載次下自下久世東至桂川東南

紀伊郡

吉祥院 所名 在東寺四塚申西方鳥羽街道西七八町

○吉祥院 在同所平林中 堂南向 本尊 吉祥天女
立像三尺許 作傳教大師 ○同東脇壇 傳教太

師像坐倚子一尺六七寸 新作 ○同西脇壇 菅原清
公像衣冠坐像長同上 新作

天満宮 在同堂西 鳥居東向在林外東

宮 南向 所祭管神

○老松紅梅社 在本殿東南向 二神祭一社

○十二所權現社 在本殿西傍東向

○十六萬八千神社 在本殿南

○辨財天社 在鳥居南傍東向

○藏王社 在鳥居內南向

○大原野社 在藏王南 所祭 大原野春日明神
當院ハ菅家菅代ノ領地ニテ。菅相公ノ別業アリ。初菅
家ノ祖清公卿延暦二十二年七月ニ遣唐使トシテ異
朝ニ到リ。明州ノ湊ニ著シトスルニ海上風發ツテ船漂
世トス。傳教大師始最澄タリシ時入唐求法ノタメニ
同船ニアリ。即チ起テ吉祥天女ノ法ヲ修シテ其平安ヲ
祈ル。法驗感ニコタヘテ。忽チ順風ト成ツテ無異義入唐。其
後歸朝セリ。遂ニ清公卿ト心ヲ合セテ。吉祥天ノ像ヲ造
立ス。清公即チ此地ヲ點シテ。堂宇ヲ建立シテ天女ヲ

置シ号吉祥院也 緣起意 ○舊記云 鳥羽院御宇

天仁二年二月二十五日依菅相公告始行此野御
忌日於吉祥院行八講云

○放生池 鳥居東川是也 水源記前卷

六田地名 舊跡在鳥居寅卯方河東五十間許田間

此所古菅相公垂ノ音ヲ愛シ玉フ所ナリ。寛永ノ比世ノ
謡哥ニ六田ノ夜半ノ虫ノ音云云此所ナリ

●牛宮 在同所竹林東 今棟ノ枯木アリ 傳不詳

石原所名在吉祥院南 有民居多村 石原号在止

下上ハ今ト吉祥院村是ナリ

○賀陽宮 古此所ハ 桓武帝第五ノ御子賀陽親王ノ

別館ナリ。号賀陽宮舊地不詳。三代實錄曰。貞觀三年六月七日庚戌山城國奏言賀陽離宮久不行幸。稍致破壞。請爲國司行政處。但不廢舊宮名。行幸之日加掃除。許之。卷五出三十五

鳥羽所名

鳥羽在上下

上鳥羽

在四塚南

○作路。此名世ニ高シ。今名ヲ減ス。按ニ作路ハ云前八町則其内ナル歟。其故ハ此道東寺ニ近跡載太平記。文ニ勅使河原丹三郎主上ハ何地共ナク東ヲ差テ落サセ玉ヒヌト披露アリケレバ見危致命臣ノ義ナリ。我何ノ顔アツテカ。上朝ノ臣トシテ不義ノ逆臣ニ順シヤト

テ。三條川原ヨリ父子三騎引返シテ。鳥羽ノ造道羅城門ノ邊ニテ腹カキキツテ死テリ云。古今著聞集文上東寺ノ南作道ノ田中ニテ求出シタリト云。卷十七又号作道。分内在十八町。欽出太平記卷八。文東寺前ナル寄手ヲ取籠ントス。作道十八町ニ充滿タル寄手是ヲミテ不叶トヤ思ヒケシ。羅城門ノ西ヲ横切ニ寺戸ヲ指テ引返ス云。○此名鳥羽ノニモ不限。八幡ニモアリ。但今知者ナシ。爲世物語トイフ。雙紙ニミヘタリ。此道出徒然草。此書賞世諸抄板行シテ今十四通アリ。如何ナル故カ。一書ニモ不詳也。有一勘載別記。

鳥羽

詠和歌

月清

集 夕々しの夕ふれり成吹風おる相田のふふふとて也 後集

集 雪ふりふりふりつとふ月さう鳥羽田に雲まをりて 後集

○正覺山寶相寺 在上鳥羽中民居西方 門東向

佛殿 南向 宗旨 法華屬妙覺寺 開基 大僧正

大覺上人 上人ハ月像ノ弟子ナリ。近衛攝政經忠公

男初、真言差我大覺寺ニ住ス。日像上人宗旨弘通時

爲弟子 委龍華傳

○俳諧師貞德墓 在堂前東面

塔銘 逍遊軒明心居士 承應二年十二月十二日

貞德傳 洛陽人也。其先攝州高槻郡司入江政

重。母松永彈正久秀伯母也。其長子永種此時氏次

○松永其子貞德也。号明心居士其他逍遊軒圓陀庵

呂長頭麻呂皆別称也。嗜歌學時細川藤孝隱于洛

東吉田師之。又以俳諧鳴于世。卒年八十二歲。其辞世

ツノ命消ルコモノ玉哥フタヒウケヌ御法ナラシ

○地藏堂 在右南方路傍 六角堂 西向 地藏菩薩

立像七尺 作 小野篁 當國六地藏其一傳記上

○觀音堂 在地藏堂南傍 本尊 聖觀音 立像五尺

作不詳

○戀塚 在地藏堂南路傍東池中 上三石碑ヲ立ル

正保四年十一月二十九日序銘作者 羅山子

願主 永井日向守直清 序詞略 銘

呼節婦兮

惟孝惟義

石可泯兮

貞名不已

夫秋戀塚者一所ニ在ッテ難史今土人ノ謠ヲ以テ記ス
見人所好可願一説曰ク今此塚ハ遠藤武者ガ所築
ニアラス古ハ此池廣大ニシテ鯉アリ住コトスフレテ已ニ化
通ヲ得タリ間又種々ノ奇怪ヲ振舞テ婦人女子ヲ憐
ス是故ニ遂ニ馳捕レテ滅ス然レトモ尚其靈執ヲ飾テ池
底ニ納テ作塚号鯉塚云

小枝

所名

土人コイダト云フハ非ナリ

在上鳥羽南八町

小枝橋

在同所

貞成亥渡卯辰新行四十二間

下流北ヨリ南ニ流ル是則五條橋ノ下流鴨川ノ末ナリ

○稱瀬淵

右橋ノ下鴨川桂川ノ落合云云此名今

亡山出景清舞

悉七兵衛景清ガ愛妾五子主ト云者

景清ガ在所ヲレテ源氏ノ代官六波羅ノ館ニ訖ル故ニ
景清ヲ捕ルナリ然ッレテ此女ノ不道ヲ憎ンテ京中ヲ
率度シ其後此淵ニ沈ムト云云其詞ニ鴨ト桂ノ落合
瀬淵淵ト云云

秋山

地名今秋山ト云フハ小枝橋ノ良五町許東ノ川ヨリ

西四町許田地ノ間ヲ云フ也秋山トハ往昔鳥羽殿ノ
境内ニ四節ノ風景ヲ造ル中ニ楓紅葉ノ樹ヲ植テ秋ヲ
愛シ玉ヲ所ニシテ同キ殿館ヨリ南西ニ築設ル假山ナリ
其形今纔ニ殘ッテ小枝橋ノ南路傍ノ東竹林ノ小
山是ナリ古ク此山ニ阿弥陀堂アリ同キ殿中ノ御堂也

くつゝあへさうゝみまね

あつたやとの坪よふききくつゝあへさうゝみまね

鳥羽殿門 在南北

出盛衰記

高倉新院殿島御

幸ノ時鳥羽殿ニ

後白川上皇マシマス故ニ御立寄ア

ツテ御出ノ時此南門ヨリ出テ御舟ニ乗王ト云 卷十

四丁按ス。舟ハ即チ西方桂川ニアルナリ。古鳥羽往還

道ハ今ノ道ヨリ東。今田島ノ所ヲ南ハ今ノ横大路ノ東

一町許東ヲ通ツテ淀ニ至リ也。其道條今田地ノ下ニ

在テ。石橋ノ石等土中ニアリ。其條地中土尚堅ク道ノ

姿アリト云ラ 此邊土ノ人之説 其所北ハ壱ニ朱雀通九條ニ至リ

也。今ノ躰上鳥羽ヨリ横大路富森地名納所 淀領在

ニ至リ。皆秀吉公ノ時民家ヲ西ノ方堤ノ上ニ引移サ

レノ民村古ハ東ニアリ。又同條東伏見ヨリ淀ニ至ル堤

モ同時ニ出来ス尚末卷ニ載タリ。或問云此南北門鳥

羽殿ノ門ハ會得ニガタシ。ルハ何ソ往還ノ貴賤トス

ベケンヤ。南北ニトフリタル躰諸書ニアリ如何ト。答云此

門鳥羽殿ノ外封ノ門ニテ彼御所ハ西面ニアレバ此門

其前街遷道ノ中南北ニアリトミルベシ。此門則彼御所

ノ方境ナリ。例セバ今西本願寺門前ノ大路ノ中。南北ニ

門アツテ往返スルガゴトシ

城南神社

在小枝東平林内

鳥居

東向

社 南向

拜殿 南向

所祭

社家説曰二十二社内上七社也

七社 伊勢 石清水 賀茂^上 松尾 平野

稍荷 春日^上 城^上南神 王城南地故也

○八幡宮 在^上右東方南向 已上例祭 九月九日

有神興二基 竹田 上鳥羽 塔^上森 小枝^上土人

為産沙神

月清集 此も神もく祈るの法也 社頭祝題

北殿^上 田中殿^上も 按^上之此舊地今城南社^上女子ノ間ヨリ

限^上ニ至ツテ三町許リノ所ナリ假山泉石ノ跡地中ニアリ

是ヨリ今竹田安樂壽院ニ至ツテ昔ハ下境^上ノ所ニテ皆ナ

北殿ノ地ナリ竹田ハ自是北東二町許也北殿ハ白河

上皇移棲玉ヒレ所ナリ

子載集も羽衣^上ハ一海^上より此常貝^上に化せりハ

人^上を流^上るもつりまうはあそはせむと

鳴^上りり音^上するそとんは本^上は外^上は鳥^上も自^上院

日^上集 ころころの音^上するもつりまうはあそはせむと

字^上せ流^上るもつりまうはあそはせむと

常^上よりつりまうはあそはせむと

池 古^上在同所 埋^上テ離^上為^上田^上形存

千載集 建永元年八月十八日^上の羽衣^上ハ所^上より

よりく流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

とそと流^上るもつりまうはあそはせむと

● 車殿 右在同所 古今著聞集云。久壽元年二月

十有日 法皇幸福門院。同車にさるる御の車後より侍

光明院へ侍奉さるるをの候を以後世にさるるを記し

陸奥を侍りてさるるを記し 卷五 按スルニ 後嵯峨院に此所

住王に侍り。王代一覽曰。此比ハ 後嵯峨院に上皇ハ鳥

羽ノ離宮ニオハシマス云 卷五三十二紙

● 田中御所 右云同御所 此所ニ古院ノ御墓在

由載保元物語第三

● 平門字 今城南宮ノ東北竹田不動院ノ西ニ寛所

田地ノ字ナリ。古同御所ノ門アル所歟

● 泉水田字 ○高島字 ○御池同 ○龍口同

已上同所ニ續イテ。今城南神社ノ北東ニ至ッテ田地ノ

字ナリ。高島トハ其地高キ故ニ云。古假山ノ跡ナリ。泉水

田ハ池アル所。龍口ハ遺水ノ通路歟。是即云上池ノアル

鳥羽殿ノ境内ナリ

● 上菩提院字 右東方竹田不動院ノ西一町許其舊跡

也 今主人称上品太王誤ナリ 保元元年六月十

三日。美福門院此所ニテ飾ヲオロシ玉ヘリ。其故ハ

近衛院早世シ玉ヒ。法皇又々御惱重キニ依テ入菩提ヲ

也 出保元物語 ○山槐記云。安元元年九月朔日

院御幸鳥羽。自明日依所被始行成菩提院念佛也

●白川院陵 古記曰成菩提院 白川院陵 按今
件所竹田村二町許西田間廣サ一間半。一間高サ四
尺ノ塚アリ。是其陵歟彼帝ハ奉火葬由見記然ハ此
陵ハ納御骨所ナラズ○或書云 白川院御骨納於鳥
羽塔中矣

●勝光明院 在鳥羽舊地不詳 元亨釋書云保延

二年三月二十三日慶鳥羽勝光明院導師忠尋チノ尼
願覺カシ猷帝及上皇六宮百司皆預會卷十六

●州濱殿 在鳥羽舊地不詳 此所新大納言成親ノ
別業ノ由載平家物語卷一

所載次下小枝東自竹田至并河 秋山南名

所載并河末

竹田 在城南宮森良且卯辰一町許 此所洛陽東

洞院通南順路也 竹田今ハ所ノ名上如舊記竹田
庄号ニシテ竹田庄上云或云真竹庄 分枝云東竹

田西竹田中間一町餘○竹田 詠和哥
修集 竹田の里ふちをぬき身をあらはせしむるを 後記

○安樂壽院 在竹田 境地東面 宗旨 真言宗派

古義新義隨意修學 門在東北 當院初 鳥羽上皇

ノ離宮ノ地ナルヲ保安四年ニ改メテ爲寺五層寶塔ヲ
造メ爲地鎮時 上皇御年二十一歳釋門ニ入ツテ密

乘之尊信之玉へり。○釋書卷十六曰。久安二年六月
法皇幸齊山。秋八月慶彌陀像于鳥羽宮。又同年
六月十七日。天仁天治二上皇幸天台山。召座主
行玄修七佛藥師法。八月十一日。營佛宇于鳥羽宮
安彌陀九像慶之。同上

○堂東向。始五重塔也。今猶是。本御塔。

本尊阿彌陀佛。坐像二尺四寸許。安厨子。神明化現ノ

造り玉へり。委有傳記。胸ニ玉字アリ。号玉字阿彌陀。

堂下ニ石櫃有リ。鳥羽院ノ宸書ノ法華經并顯密ノ

衆僧二五部ノ大乘經ヲ一字一石ニ書シテ納メ玉へリ。又

法皇御遺詔ノ故ニ崩御ノ後御遺骸ヲ此塔下ニ奉納

也。○帝王系圖曰。保元元年七月二日崩。年五十四。
即夜葬鳥羽安樂壽院。本御塔云云。○百練抄曰。御
塔擬山陵也矣。

○新御塔。右卯辰間西向。此堂古五重塔也。後

世堂ニ改ルト云ヘトモ用舊号ナリ。傳曰。此所始塔九所ニ

在リ舊地不詳。本尊。十一面觀音立像二尺四寸許。

安厨子。作弘法太師。○脇壇。右鳥羽院宸影。

左美福門院。八條女院。裝束五重。共畫圖。筆者不詳。

同御自筆ノ影兩幅アリ。納藏。此所美福門院御建。

立准。本御塔新御塔号レ玉へリ。

○美福門院。鳥羽院女御參議藤長實卿女近衛。

院母公

○八條女院

美福門院御子号暲子内親王無立

后称女院

後白川院東宮御時爲養母

○塔二重

在新御塔西

本尊

阿弥陀佛

坐像二

尺四五寸作

春日

○新堂

在本御塔南南向

本尊

藥師佛坐像

二尺五寸許安厨子

作

行基

○無銘五輪塔

在同堂前

由縁不詳

立無銘

塔當國有四所

○御愛梅

在塔北傍及本御塔北傍二所

鳥羽院所愛也

○冠石

在本御塔東塚下。上在松俗云龜石非云

○荒神社

在塔西東向

右兩御塔ニ古供僧十二房舎アリ。就中本御塔ノ

六房ハ鳥羽上皇脱履ノ日同剃髮ニテ隨從奉ル

近臣六人ノ裔ナリ

新御塔六房

美福門院

八條女院准上所定也

○國分寺

在安樂壽院良三町許

地ヲ云田中

額國分寺

横額

筆者不詳

本尊

阿弥陀佛

立像二尺許

作春日

按

聖武天皇六十餘州

每國ニ一寺ヲ建テ号國分寺至ヲ載テ舊記ニ詳也。一

說ニ山州ノ國分寺ハ即チ此所ナリ。此說非ナリ。當國ノ

國分寺。舊跡在相樂郡明白。載卷十三。今此所ハ
國分尼寺ノ舊跡ナル歟。天皇ノ后光明皇后又六十
餘州ニ國分尼寺ヲ建テ。尼ヲ栖ム。予當國ヲ經歷スルニ
未。國分尼寺ノ舊跡ヲ聞ズ。是故ニ迷之。後人可有考
○九品寺 在里中南面 傳未考
○山王太宮 在東竹田竹林中 鳥居南向 宮南向
○十禪師宮 在大宮東三十間許 例祭 四月初申
○御幸社 在大宮西田間 右山王宮古ハ魏大ニシテ
神領アリ。例祭美々々々走馬走馬逸者アリ。此所神輿ノ旅所
ニシテ西方ニ到ル其地今尚老杉アリ。自社三町許
○猿塚 在里良方田間 傳云往昔白猿此所ニ來リ

遊。皆云。是即山王権現。膚嶽ノ麓ヨリ此地ニ影
向ノ瑞ナリト。因夫當所ニ山王神ヲ勧請シテ産沙ノ
神ト爲ト
△東陵 △西陵 安樂壽院ノ東西人家ノ地ノ字也。号
陵町。是東陵ナリ。西陵ハ土人号塔壇堆壇ノ地アリ。此
所ヨリ近年石鎖管ヲ掘出ス。陵不詳
○西行寺 在西陵町西竹林中南面 傳云此所ニ
西行法師幽棲スト。庭ニ池アリ。称西行月見池。可有後勤
○北向不動院 在同里西 宗旨 真言 門 西向
佛殿 北向 本尊 不動明王 坐像六尺許 作 興教
大師 御本願 鳥羽法皇 ○傳 鳥羽法皇兼テ

師ヲ信じ至へり。是故ニ當院ヲ建立シテ師ヲ住ま近隣ノ離宮ニ召テ法要ヲ聽聞し至へり。或時師ニ勅し至く爲鎮護國家不動ノ巨像ヲ刻彫シテ此地ニ安スヘシト師勅答シテ閑所ニ籠ツテ斧ヲ下ス幾許ナラスシテ像現ス乃一字ヲ立テ安置ス。又像軀ニ師所持ノ佛舍利七粒手書ノ經咒ヲ納ム。今現ニアリ。此尊毎月ノ朔十六二十八日ニ開帳ス。傳云朔日ハ上皇御即位日。十六日御誕生辰。廿八日御脱躰日也。上皇ヨリ代々聖主天下安全寶祚榮久ノ勅願所ト成ス。但中絶年アツテ近世後水尾院ノ御時ヨリ當今ニ至ツテ御祈ノ詔アルナリ

○美福門院陵 不動院門前西塚是也 土人説

○近衛院陵 編年集曰久壽二年七月廿三日崩于

近衛皇居年十七。八月朔日葬船岡山野御骨安置

知足院。○百練抄云。長寛元年十一月廿八日奉渡

近衛院御骨於鳥羽東殿美福門院御塔矣

井河地名在城南宮南五町許

古此所ニ清流アツテ三尺ノ根井ヲ生ズ。因テ爲名ト云。

其水源鴨川ノ下流ニシテ東ノ方竹田ヨリ入レ。今絶ス。

民居凡方一町爲村名。○井河 詠和歌

後人不知
史集
乃とほろとせしむる
井河の根あつた
うづもる

●井河御所 此所古 仁明天皇ノ離宮ナリ

孝天皇 仁和二年十二月十四日寅刻井河行幸事
載舊記 仁明天皇此所ニ行幸アツテ其還幸ノ日自
此到深草玉ヲ事載大鏡後撰集ノ詞書ニ仁和ノ御門
差表ノ御時ノ例ニテ井河ニ行幸シ玉フトキ中納言行
平ノ和歌ニ嵯峨ノ山御幸絶ニ井河ノ千代ノ古道
跡ハアリケリト詠ズ即チ此所ナリ所詠ノ嵯峨ノ山ハ
名所ノ嵯峨ニアラス 嵯峨天皇ヲ指ス也是ヲ洛西ノ
嵯峨トミルニツイテ後人此哥ヲ證トナシテ嵯峨ニ千
代ノ古道ヲ詠ミ井河ヲ讀ナリト云云新續古今集家
隆卿ノ哥ニ春クレバ千代ノ古道ヲ分テ誰井河ニ若

菜摘ラン 但此哥ハ今此井河ヲ讀ルナリ千世ノ古道ハ
舊例ノ義千代ノ經ノ謂ナリ名所ニアラス

後世詠井河行幸和哥

後撰集
公雅
の流をうくるはねるをれは河の流をうくるはねる

所載次下自小枝橋南記

赤池所名云橋南一町許片方人家地 此所南西方ニ
古池アリ遠藤盛遠渡ガ妻ヲ斬テ太刀ヲ此池ニ洗フニ
水忽チ血ニ成テ澄コトナシ依テ号シト也池今爲田
所名 出古書此所鳥羽ノ西桂川ノ畔口ニシテ下
鳥羽ノ北ナル歟○平家物語卷四治承四年三月上旬

新拾遺集

[illegible]

在小枝南六十五所

其所人家往還道ノ

左右ニアツテ。南北ニ三町ヲ云。是則土人ノ野号也。
 識ミ、ロハ。初メ土地ノ低キヲ。土石ヲツンテ道路ヲナス。以
 低爲高故ニ称之也。此邊至ツテ低シ。今尙堤ノ東沼
 池ナリ。一説曰。鳥羽院此邊ニ住玉ヘルトキ御祈念ノ
 僧常ニ壇上ニ居テ護摩ヲ修シ。密呪ヲ誦スル。其寺
 地ノユヘニ云壇上ト。何ゾ天子ノ護持僧道場往還ノ巷ニ
 可_レ在乎可_レ笑_フ

戀塚寺

在同所人家中東方ガクニ

寺南面 淨土宗僧

此所ニ有小家。是即チ盛遠ガ所築也。其由縁

言ヲ寄ル。彼負女ニ喋ラレテ。渡ヲ殺ス。女ヲ斬ル事
所知也。女ハ盛遠ガ從兄弟ニシテ。姨ノ女也。姨ヲ号テ
衣川ト云フ。奥州衣川ニ住シ故ナリ。其後歸上ツテ。其
在トイヘ。一家ノ輩尚衣川殿ト呼ビ也。渡ガ妻ハ名ヲ
吾妻トイヘ。トモ衣川ノ子ナレバ。ト。他果名ヲナシテ。袈
裟ト号ス。容色艶ナリ。盛遠十七歳ニ及テ。渡邊ノ橋
造營仕養ノ日。是ヲ見初ム。是ニ戀慕ノ始ナリ。女書殘
哥。露ヲカキ。淺茅ガ原ニ迷フ身ノイト。闇路ニ入ル。ソ
悲シキ。母是ヲ見テ。闇路ニモトモニ迷ヒテ。蓬生ニ獨
露ケキ身ライカニセ。母翌年四十五歳ニシテ死ス。
渡發心シテ。剃髮シ。渡阿弥陀佛ト号ス。盛遠剃髮ト

盛阿弥陀佛ト号ス。即チ女ノ遺骸ヲ以テ。家ノ後苑ニ
収メテ。三年ニ至テ。入不退ニ念佛シテ。弔フ。或夜二人
ノ僧夢ニ彼塚ノ上ニ蓮華開ケ。女其上ニ坐シテ成佛
ノ相ヲ示ス。二人歡喜シテ。マズク追福ヲ修ス。已上盛衰記
意卷十九。○此所爲寺開基未詳。按三右ノ塚今尤端
近ニシテ。往還道ヨリ。十五六間ニアリ。右如盛衰記。此塚
盛遠ガ家ノ後ニ築ト。然ラバ今上鳥羽ノ南ノ端ヨリ
此所及ビ南淀ニ至テ。面トナス方ハ古ノ後ナル事ヲ可知
下鳥羽 云壇上南

法傳寺 在同所里南東方 寺門西面 宗旨 淨土
本尊 阿弥陀佛 坐像三尺餘 作惠心

○藥師堂 在佛殿南 本尊 藥師佛坐像二尺餘
作 行基○十二神 四天主 作 弘法大師

當寺開基 行基菩薩 中興 圓知上人是則東

山知恩院ノ一代ノ住守也。辭職ノ後、開居ノ地ヲ選ム。

或時洛北岩屋山ニ詣スルニ、彼山ノ不動尊ノ示驗ニ

由テ此地ヲ感得ス。改テ爲專念道場。

○方便水 同所北ノ門前ノ井水也 此水爲名事

圓知上人此所ニ來シルニ水乏シ。因テ水源ヲ尋テ井ヲ

穿ツ時、村民ヲ招テ云々。汝等佛号ヲ唱ヘテ井ヲ掘ガ

錢ヲ與ヘント。男女錢ニシテ事ヲ欲シテ。聲ニ唱ヘテ。

所掘也。是則上人善巧ノ方便ナル故爲名也。

○一念寺 法傳寺南路傍西向ノ小堂是ナリ

本尊 阿彌陀佛坐像八尺 作 春日 開基 真阿彌

陀佛 此僧 後村上院ノ御子也ト云フ。晚年此地ニ

閑居シ終リ。西面ノ川ニ水葬ス。其所ヲ号テ真阿彌淵

ト云フ。此所ノ北在牛町許

○田中天主社 在法傳寺異三町許森内 拜殿東向

社同 所祭 牛頭天王 社記未考 例祭 九月

十日 下鳥羽及橫大路土人爲産沙神 有神輿一基

上羽所名 在法傳寺東北

三昧無常所 在同所 此所近邊ノ葬所ナリ

此所行基菩薩開闢ノ所也 有小堂 本尊 地藏菩薩

薩立像六尺許作行基

經塚 在同所行基菩薩所設也

横大路所名 在下鳥羽南 人家大路ノ東西ニアリ

此所無古秀吉公代此堤ヲ築テ北鳥羽南ハ淀ニ至ル
其ヨリ皆人家ヲ堤ノ上左右ニ移スナリ古ハ東方今田

島ノ地ニシテ中ニ往還道アリ号横大路伏見ノ城ヨリ當

西此路攝津國河内等ヨリ到都街道ナル謂ナリ

富森所名 在横大路南三町許 此所同ト所引移也

元ノ地ハ東方在二町許此所古森アリ号富森今亡

此元ノ地ノ名古濃謂ハ只古此邊川原ニシテ東ハ宇

治川伏見川ノ流ニツキ多往來ハ舟ハ是ヨリ舟渡シ

ニテ一口エワ多リ也今其渡口富森ヨリ異ニアタル淀

堤ノ上ニ今民家ヲ移ナリ此所古ノ渡口ナリ今尚渡

場ト云フ也

納所所名 在富森南 自是淀領也

○赤井別名赤江 此所滅ス今云赤井ハ横大路ノ西ノ渡

場ヨリ未申ニ有一村人家二十軒許アリ是近世ニ所

構ニテ穢多居住ス

赤井 赤井川原同橋等舊傳并ニ平家物語盛衰記太

平記ニ載セタリ此所元ノ地ハ今ノ横大路ノ東ヨリ南ニ

ツキテ田島トナス所ナリ此所古ハ東ニ淀堤無シテ

備ノ川原ニシテ中ニ川アツテ其流東ハ宇治川伏見川

流レテ西ノ方桂川ニ入ツテ淀ノ水垂ニ入ル也

此川原ヲ云赤井川原有橋南北ニ渡ル是ニ云赤井橋
此道南ハ淀ニ至リ北ハ古ノ鳥羽街道ニシテ九條朱雀
通ニ通ズ橋南北ニ渡ル躰載太平記文ニ大渡ノ橋ヲ打
渡リテ赤井川原ニヒカヘラルト云大渡ノ橋ハ古淀ニアリ
載淀條下又曰八幡ハ究竟ノ要害ナルニ赤井ノ橋ヲ
引テ畿内ノ官軍七千餘騎ニテ楯籠ル云盛衰記
曰池大納言賴盛卿モ池殿ノ亭ニ火ヲカケテ鳥羽ノ
南赤井川原マテ落玉ヒケル卷三十一出二千紙

○赤江崎 云右同所 出三代實錄

三代實錄曰貞觀七年二月廿一日戊午是日制山

城國自故治部卿賀陽親王石原家至赤江崎承和
元年以降百姓不能漁獵重加禁卷四十三出六五
●赤江淵 今不詳 源爲義生害ノ後其室此所ニ投
身由載保元記

已上自是南至淀紀伊郡

所載次下自小枝橋西川西至南

塔森 所名 在小枝乾三町許 有民居各村

古此所ニ森アリ是塔森傳云秀吉公朝鮮國發向
時伏見ヨリ此道ヲ過リ玉フニ其森ニタウノ名アルヲ聞
召テ即チ火ヲ放ツニ燒亡シ大ニ笑ヲ含シテ是即チ唐ヲ
亡スベキ前表ナリト祝シ玉ヒトナリ 此所紀伊郡

桂川 在塔森西 是即久世之東之經之此所三流桂
下流ナリ

○乙訓郡 右鳥川西當郡也 次下ノ名所前卷

乙訓郡ノ部ニ不記此所ニ記ス事ハ尋ル人京師ヨリ
至ルニ上鳥羽ヨリ至ル是順路ナラ故ニ寫得得意也
久我所名 或作興我 在上下此所上久我ナリ

有民居名社 在塔森西南川西三町許

○久我噺 此道上鳥羽ノ南ノ端ヨリ西南ニ至ル道ナリ
此卷ヨリ至久我八九町許此道久我ヲ通リテ南西山
背ノ北ノ巷ニ至ル此中間野徑ノ中ヲ通テ以テ
云噺也 是則上古大内ノ御時西國ヨリ玉城ニ到ル者

此路ヲ經ル仍テ其名高キ也大平記云久我噺合戰ノ
地是ナリ其戰場ハ下久我ノ南ナリ

○久我神社 在上久我民居乾二町許 鳥居 南向
拜殿同 社同 神号 菱妻明神 社記未考

三代實錄曰貞觀八年八月十四日丙戌授山城國
正六位上興我万代繼神從五位下卷十三出十二上
主人爲産沙神 例祭 四月己巳 已有兩日用中

○久我森 云同社社 詠和哥

八幡宮 在右社東 鳥居 南向 官同 官記不詳
同 久我森ノ社ニ至ルニ森ノ南ニ有ルニ久我ノ社ナリ

山陰縣志卷十一
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

